

# 緑のセンターだより

No.205

公益財団法人 旭川市公園緑地協会 旭川市緑のセンター(相談所)

〒078-8327 旭川市神楽岡公園内 Tel 0166-65-5553 Fax 0166-65-5626

旭川市公園緑地協会ホームページ <http://www.asahikawa-park.or.jp>

発行:令和5年12月1日

## 講習会のご案内

(講習会の受付は前月の20日から、20日が休館日の場合は、翌日の21日から)

講習会の案内は、広報旭川市民「あさひばし」に掲載します

### 「くつろぎカフェ」

講師 ハーブコーディネーター 建部 久美子さん

日時 令和5年12月2日(土)

午前10時00分～午後15時00分で、4回開催

1.午前10時から 2.午前11時から

3.午後1時から 4.午後2時から

(各45分・定員 午前各15人、午後各10人)

料金 100円(茶葉代)

※11月21日(火)～講座受付中

※当日定員に余裕がある場合も受付を行いますので、お声がけください。

### 「麻ひもで編むプランターハンガー作り講座」

日時 ①令和5年12月20日(水) 定員5名

②令和6年1月20日(土) 定員5名

③令和6年2月20日(火) 定員5名

午後1時～3時 各日料金500円

講師 緑のセンター職員(フラワーマスター)

①の講座受付は、11月21日(火)～受付中

②の講座受付は、12月20日(水) 午前9時～

③の講座受付は、1月20日(土) 午前9時～

### 「果樹の剪定と栽培管理」～リンゴ、サクランボ、プラムほか～

日時 令和6年2月10日(土)

午後1時00分～3時00分 定員30名

講師 ふじくらますも果樹園 増茂 聡さん

※講座の受付は、1月20日(土) 午前9時～

### 「神楽岡公園 冬の自然観察会」～冬の園内を探索しよう～

日時 令和6年2月23日(金・祝)

午前10時00分～12時00分 定員15名

講師 森の写真家 阿久津 弘明さん

森林セラピスト 佐藤 まゆみさん

※講座の受付は、1月20日(土) 午前9時～

## 展示会のご案内

### 「神楽岡公園の四季写真展」

日時 令和5年12月1日(金)～24日(日)

作品提供 板垣 吉春さん

### 「神楽岡公園の自然写真展」

日時 令和6年1月6日(土)～2月25日(日)

作品提供 阿久津 弘明さん



## 年末年始のお知らせ

本年も緑のセンターをご利用いただきまして誠にありがとうございます

緑のセンターは2023年12月30日(土)～

2024年1月4日(木)まで休館いたします

新年は1月5日(金)より開館しますので

2024年もどうぞよろしくお願いたします



## 神楽岡公園 歩くスキーコース

開始時期：12月下旬ころを予定

(積雪、コース状況などは電話で、ご確認ください)

歩くスキーセットの無料貸出

- ① スキー板 ② スキーポール ③ スキー靴 (サイズ調整のため、靴下ご持参ください)

### 【休館日のお知らせ】

4月～10月は、第2・4月曜日が休館日です。(祝日の場合は翌日)

11月～3月は、毎週月曜日が休館日です。( " )



## 12月の園芸作業

### 1、鉢花・草花・球根類

- **シクラメン**は日光がよくあたる場所に置き、昼間は15～22℃、夜間は10℃を確保します。開花している場合は、液肥(1,000倍程度を一週間に1回)を与えます。また、花茎や蕾を株の中心に寄せ、葉は放射線状に下げていく「葉組み」作業をすることが大切です。
- **ポインセチア**の生育適温は18～30℃。18℃以下では停滞します。光線の良くあたる窓辺に置き、生育適温を保てれば肥料をあたえます。
- **クンシラン**は、室温が確保されている場合は開花中でも定期的に肥料を与えます。室温が10℃程度の場合は水を控え目にして管理します。花茎があがってきたら、20℃前後の部屋に置き、水を与えましょう。
- **アザレア**は10～15℃の場所で育てると、40～50日で開花します。花は温度が低い方が花もちも良いので置く場所に注意します。水やりは鉢土が乾かさないように注意します。

### 2 庭木・果樹類

- 落葉樹の剪定は12月～3月上旬が適期です。冬は葉を落としているため、枝ぶりがはっきり見え、切るべき枝が解りやすいので木が眠っている間に不要枝を切り、樹形を整えましょう。
- 太い枝を切った時は早く傷口が治るように、切り口に保護剤(トップジンMペースト等)を塗っておきましょう。

### 3 観葉植物類

- 暖房している室内は空気が乾燥しています。環境の変化を和らげるため、茎や葉に毎日、水を霧吹きすると良いでしょう。

### 4 多肉植物・サボテン類

- **シャコバサボテン**の開花株は温風があたることを避け、最低温度が10℃以下にならない暖かくよく日が当たる室内で管理します。また、花が終わったものはこまめに花柄摘みを行います。



## 1月の園芸作業

### 1 鉢花・草花・球根類

- **シクラメン**などの鉢花は低い温度で管理すると花を長く楽しめます。日光になるべく当てて、水は鉢土が乾いたらたっぷり与えます。室内が極端に乾燥する場合は、ときどき霧吹すると株が疲れません。
- **セントポーリア**の生育温度は18～25℃が理想です。水やりは鉢が乾ききる前に与えますが、回数は少なめにして、肥料は薄めた液体肥料を2週間に1回ほど施すようにします。
- 枯葉とりや花柄摘みをこまめに行い、同時にアブラムシやハダニなどがいないかも点検し、発生している場合は早期防除に努めます。

### 2 洋らん類

- 最低温度が15℃を下回らない明るい部屋で管理します。暖房している部屋は湿度が低下するので1日数回、霧吹きして湿度を補います。
- 花が咲くと、水の消費が早くなります。開花中は花に水をかけないようにしながら、乾燥防止の霧吹きと、鉢の中の乾き具合もこまめにチェックしましょう。肥料は与えません。

### 3 観葉植物類

- 種類によって最低温度は異なりますが、基本的に熱帯・亜熱帯原産の植物なので低温を嫌います。低温過湿を嫌う種が多いので置き場所に注意し、種類にあった水管理をします。
- 生育しているものは、既定の2倍ぐらいに薄めた液体肥料を2週間に1回ほど施すようにします。

### 4 多肉植物・サボテン類

- **シャコバサボテン**の花が終わった株は、明るい部屋で、乾燥気味に管理しましょう。
- **アテニウム(砂漠のバラ)クラッスラ属(カネノナルキ)**、**アロエ**などは窓辺で日光に十分に当てて、室温が低い場合は水やりを控えましょう。

# 〈我が家の庭づくり〉 初冬編 園芸道具のメンテナンス

《庭の仕事が一段落したこの時期に道具類の整備をしておきましょう》

庭の管理に使う道具類(ハサミ類・スコップ・鋏・てみ等)・(ブッシュカッター・バリカン・芝刈り機等)のメンテナンスをシーズンオフの時にすませておけば春先からの園芸作業がスムーズに始められます。

## 1. バリカン類・ブッシュカッター(刈り払い機)

機械にへばりついた刈り草の除去と掃除、刈刃の点検(研磨)オイル類のチェックや交換等を行い、ガソリンなどの燃料は抜いておきましょう。

## 2. 植木鋏・剪定鋏・刈込鋏

240番から320番のサンドペーパーでサビを落とし、鋏がスムーズに動くように合わせ(隙間)の調整をします。砥石・シャープナーで刃を研磨しサビ防止や潤滑効果のためマシン油やCRCを布に付けて塗り込みましょう。

## 3. 散水道具・はす口・ジョウロ

はす口のシャワー一部分に水あか・藻などが付き目詰まりしている場合は、歯ブラシやタワシ等の毛の細かい物でこするか、針で穴を1つずつ挿して水の通りを良くしてやると良いでしょう。

## 4. スコップ・レーキ

サンドペーパー180番から320番(数字が小さいほど粗い)でサビを落としCRCまたはペンキを塗っておくと作業時の土落ちが良くなります。



庭で使用する機械類



刃物類(植木鋏・剪定鋏・刈込鋏)



スコップ・レーキとメンテナンス道具類

## 植物の病気 その76 ぶどうの「晩腐病」

ぶどうの晩腐病は、令和5年に緑のセンターに問い合わせが多かった病気です。ほとんどの品種に発生が見られますが、巨峰やピオーネといった品種は「晩腐病」に弱く大敵となっています。本病は収穫前の降雨により二次感染が助長され、急速な発生拡大を起こして収量の低下を招きます。生育期における本病発症の多くは、前年に罹病した「結果母枝」や「巻きひげ」等が残って越冬し、発生源になっていることが少なくありません。

### 防除方法

① 密植を避けて、園内の排水、通風を良くします。② ぶどう棚に前年に罹病した巻きひげや枝が残っていると、そこから雨を介して幼果期頃から房へと感染していきます。③ 主な感染時期は雨が多くなる7月からなので、落花の10日後(粒が小豆のサイズ)から重点的に防除を行っていきます。④ 着色期以降の防除は果粉の溶脱が起きるため、早期の袋かけや傘かけ(菌糸が袋を突き破って感染するため)も重要です。⑤ 薬剤散布は、「オーソサイド水和剤 80」800倍液、「ポリペリン水和剤」1,000倍液などを散布します。



キャンベルアーリーの症状



ピオーネの症状



病果がミイラ化する



## 管理のポイントは光・温度・水分

観葉植物として流通している植物には、ゴム類やカポックのような木本植物、サンセベリアのような草本植物、シダ植物など 500 種類以上あります。多くは熱帯や亜熱帯地域が原産ですが、これらの植物はある程度の日照不足に耐える耐陰性があるので、栽培のポイントに気を付ければ冬の旭川でも十分に育てられます。

また、室内の空気を浄化したり、美しい葉色や形を楽しむ緑のインテリア、心を癒す効果も期待できることから根強い人気があります。観葉植物は生長するに従って、2～3年ほどで鉢の中の根も生長して過密になり、養分や水分の吸収や呼吸も困難になって衰弱してしまうことから定期的な植え替えが必要になります。植え替えは外気温が 15～20℃を保てるようになる5月～9月が

適期なので今は行いません。冬期間の管理で注意するポイントは「光・温度・水分」です。

- ① 南方系の植物なので生育適温は 20～25℃ほど。低温(10℃以下)には十分注意が必要です。
- ② 最低温度が 15℃以上を保てる明るい場所に置き、湿度も最低 50～60%が必要です。冬期間の湿度を確保するためには加湿器を利用したり、こまめに霧水を吹きかけることも大切です。
- ③ 水やりは、鉢土の表面が乾いてからタップリ。根腐れの原因になるので受け皿に水をためず、必ず捨てる。
- ④ 暖房された部屋は湿度が不足します。乾燥と通気不足は斑点病、灰色カビ病、カイガラムシ、ハダニなどが発生しやすいので、扇風機を利用したり、毎日、こまめに霧水を吹きかける(葉裏60%)と良いでしょう。有事の際は薬剤による防除が必要になります。対処の方法が解らない場合は緑のセンターにご相談ください。
- ⑤ 生育環境(光・温度・水分)が良い場合は、うすい液肥を 10 日に一回、水やり代わりに与えます。

## 展示室の植物 (111)

### ストレリチア (別名: 極楽鳥花)



学名: *Strelitzia* ゴクラクチョウカ科 ストレリチア属

ストレリチアは南アフリカ原産で、サイズや花色の違いなどから4種が知られており、花が熱帯の「極楽鳥」の顔を思わせることから極楽鳥花の和名で呼ばれています。

耐陰性が弱いため通年室内で育てるのは難しいものの、緑のセンター展示室は採光条件が良く、温度管理もされていることから、一年を通してよく花を上げてくれ、エキゾチックな姿で参観者を歓迎してくれています。

市内の一般家庭でも、夏は鉢を外に出し、採光や温度などを駆使されて、開花させている方もおられます。